



学校だより

令和4年8月31日
横浜市立八景小学校
〒236-0021
横浜市金沢区泥亀1-21-2
Tel. 045-781-2434
校長 中川 琴似

涼風に想う

児童支援専任 吉田百合子

夏休みが終わり、子どもたちの元気な声と日焼けした笑顔が学校に戻ってきました。どの子ども朝の「おはようございます。」の一言と姿勢から少しの成長が感じられます。夏休みが心と体の休息になり、同時に何かにチャレンジしたり打ち込めたりする有意義な時間になったことと思います。保護者の皆様にとっては宿題等と格闘する日や昼食づくり等ご苦労もあったかと思えます。しかし、長い休みを自分のペースで過ごせるのも小学生の間だけです。大人になると、案外小学生の頃の夏休みが貴重に思えます。そう思うとあと何回、小学校での夏休みがあるのでしょうか。

お盆を過ぎてから、静かに響く虫の合唱が涼風によって聞こえてきます。季節が移り替わっていくことを実感しています。そんな風を感じながら、ふと子どもたちの夏休み明けの事を思っていた時、以前読んだ本のある一説を思い出しました。

- ・世の中のできごとは、正解が1つではなかったり、何が正解かが決められなかったりすることが多いのです。
- ・100点にもなり0点にもなりえる問題が日々あふれているのが世の中です。そこで自信をもって生きていくには、自分でとことん考え、そのときの自分にとっての正解が何かを判断していく力が必要になります。
- ・大事なものは、失敗しないことじゃない。何度でもチャレンジできる、前向きな心をもつこと。
- ・いろんな考え方、感じ方の人がいるから、面白い意見ができたり、新しいアイデアが生まれたりする。

久しぶりに学校に来て子どもたちは何を思ったのでしょうか。多くの友達と過ごす楽しい、嬉しいと思うこともあれば、疲れた、しんどいと思うこともあると思います。楽しい、嬉しいと思っている時は時間があっという間に過ぎ、次の時間、次の日が楽しみにになります。一方、疲れた、しんどいと思っているときは一日が長く、少し休みたいと思います。どちらの気持ちをもっていてもそれはよいと私は思います。上記の一説にあるように気持ちや自分の周りの環境は○か×で決められるものではなく、決めるものでもないからです。大切なのはどんな気持ちでも、自分自身や周りにいる人がしっかりと気持ちを受け止め、共感したり、次に進むために何が必要で、どんなことをしていけばよいか前向きに考えたりしていくことです。時には休んで、じっくり考えることや考えずにリラックスすることが必要な場合もあると思います。

また、一人で気持ちをみつめる時間もよいですが、ネガティブな気持ちの時はそれを誰かに話すことはとても大切です。学校では話しやすい先生を見つけて話すこともよいですし、友達やご家庭で話を聞いてもらうこともよいと思います。

夏休み明けのスタートがだれにとっても安心でき、学校生活が充実していけるよう私たち教職員は環境を整えたり話を聴いたりして、子どもたちや保護者の皆さんに寄り添い、ともに一人ひとりの成長を支えていきたいと思えます。